

学校名：<sup>ひがしまつしましりつやもとがいいちちゅうがっこう</sup>東松島市立矢本第一中学校  
 校長名：千葉和彦  
 所在地：宮城県東松島市小松字上浮足 194  
 電話番号：0225-82-2146

## I 実践校の概要

### 1 学校・地域の特色及び実態

東松島市は仙台平野の北東部にあり、石巻圏の西端に位置し、仙台都市圏とも隣接している。東は石巻市、南は太平洋に面し、東北地方としては比較的風雨の少ない温暖な地域である。

東松島市には4つの中学校があり、本校は当管内において全校生徒560名を超える大規模校である。学区内には航空自衛隊松島基地があり、そのため他校と比較すると生徒の転出入が多い。

昭和63年度から平成2年度の3年間は文部省指定武道（剣道）指導推進校として教育課程の柱に武道を取り入れ、生徒の心身の鍛錬に足跡を残したが、最近では都市化と核家族化が進み家庭教育の低下、礼節や道徳性、規範意識の欠如、対人関係の希薄さ等から生じる多くの生徒指導の問題が表面化している。

### 2 学校の概要（平成22年5月1日現在）

		1年	2年	3年	特別支援学級	計
学級数		6	5	5	3	19
生徒数	男	91	87	90	2	270
	女	92	107	90	2	291
	計	183	194	180	4	561

教員数 35 名（保健体育科 3 名）

（職員で剣道の有段者 6 名 有級者 3 名）

### 武道の授業の状況

領域；武道 領域の内容；剣道

		1年	2年	3年	特学	計
配当時間		15	15	15	15	45
配当教員 (外部指導者)		2 1	2 1	2 0	交流 学級	
生徒数	男	91	87	90	2	270
	女	92	107	90	2	291

※ 授業は2クラス男女合同の70名～76名

## II 授業事例及び今後の展望等

### 【本事業の成果の要点】

地域の有段者（以下、外部指導者）を活用した授業では、外部指導者の専門性を最大限に生かすことが授業を充実させるポイントとなった。剣道の専門的な知識、実技指導力を遺憾なく発揮する上で、展開部分では中心となって授業を進めてもらい、教員は巡回指導などで生徒に反復指導し、生徒個々にその指導が浸透していくようにした。外部指導者は昭和60年度から本校が文部省の武道指定を受けた時の中心的役割を担った元教員であり、剣道の指導歴が豊富だったため、生徒への説明の仕方が円滑で効果的であった。本校教員は授業の導入やまとめの部分で中心となり、展開への橋渡しを行い、生徒理解や評価を行った。

この事業で最も重視したことは、剣道の授業を通して身に付けさせたい作法や技術、練習方法など、教員と外部指導者との話し合いで、互いに指導の見通しをもつことである。

外部指導者の導入により、生徒は専門的な剣道の技術を目の当たりにし、分かりやすく、楽しく習得することができた。また、正しい礼儀作法の定着が図られ、「道」を求める真剣な取組や雰囲気醸成ができること共に授業への深まりを感じた。

### 1 研究テーマ等

#### (1) 研究テーマ

地域の指導者と体育担当教員の連携の在り方  
 ～正しい礼儀作法を身に付け、生徒一人一人が、安全で楽しく、意欲的に取り組む剣道の授業づくりを目指して～

#### (2) 研究テーマ設定のねらい

本市には4つの中学校があり、そのうち2校は過去に文部省の武道（剣道）指定を受けた実績がある。そのため、現在も研究から得た武道の精神を学校経営に反映させている様子がうかがえる。

また、東松島市内の小中学校では挨拶運動や清掃などの奉仕作業を実践し、礼儀正しく、心豊かな児童・生徒の育成を目指している。

これらをさらに浸透させるために市内の4つの中学校では、平成24年度から施行される武道必修化に伴い、保健体育の武道の単元で

は過去の武道指定で得た研究の成果を生かしながら、1・2年生では剣道を選択し、剣道の授業を通して日本の伝統文化の良さを見直し、正しい礼儀作法を身に付けた節度ある生徒を育成したいと考えている。

今年度は市内4校が一斉に剣道の授業を行うための備品等を整備した。

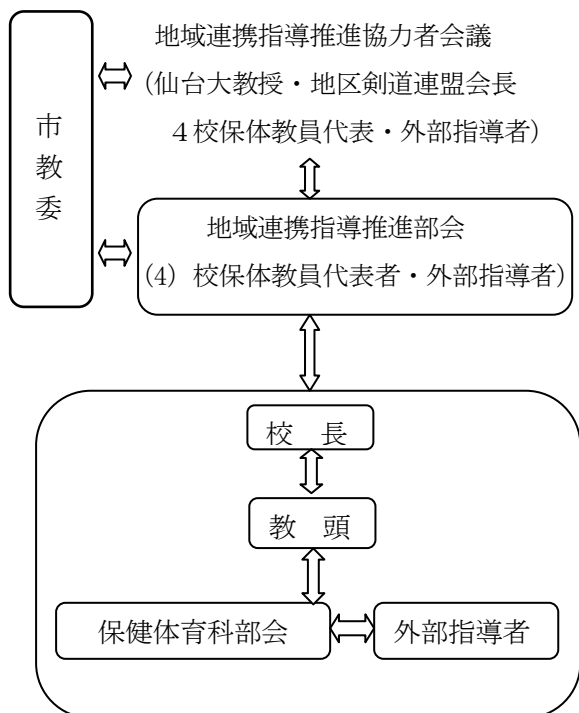
また、教員の指導技術の向上と効率的な授業実践が可能となるように地域に在住する剣道高段者（元保健体育教員2名）に外部指導者として協力をいただくことにした。

その場合の留意点として

- ① 正しい礼儀作法を身に付けられる場面を重視した授業を展開していくこと。
- ② 部活動的な剣道の指導ではなく、分りやすく、生徒一人一人が安全で楽しく、興味をもちながら意欲的に授業に取り組める剣道指導の在り方を研究していくこと。
- ③ 体育教員の研修会を実施して剣道の指導技術の向上と普及を図ること。
- ④ 指導経験が十分でない指導者でも取り組める指導計画を作成すること。
- ⑤ 指導計画の作成に当たり、仙台大学現代武道学科教授の指導助言をいただくこと。

以上のことから、より質の高い地域連携指導を模索しながら全県に剣道指導の在り方を発信していく。

### (3) 取組体制について



### (4) 本事業における主な取組

月	取組内容
7	第1回地域連携指導推進協力者会議 (事業内容の説明と役割確認) 第1回地域連携推進部会 (各校の施設設備・剣道具等の確認)
8	第2回地域連携推進部会 (単元計画の素案作成) 第1回石巻地区保体教員実技研修会
9	第2回地域連携指導推進協力者会議 (進行状況・単元計画の見直し) 第3回地域連携指導推進部会 (各校進行状況確認・外部指導者との 打ち合わせ) 第2回東松島市保体教員実技研修会 授業開始
10	授業実践 第3回東松島市保体教員実技研修会 昇段審査受審 (保体教員 初段合格1名 1級合格3名)
11	授業評価 第4回地域連携指導推進部会 (授業実践による検討会) 生徒アンケート調査
12	単元計画の修正・指導計画作成
1	指導計画作成 研究のまとめ作成
2	指導計画最終検討会 第3回地域連携指導推進協力者会議 (研究のまとめ検討会) 第5回地域連携指導推進部会 (指導計画の最終点検)
3	報告書・資料集作成

## 2 授業事例

### (1) 剣道（初めて取り組む剣道授業1年男女）

#### ① 目的

我が国の伝統と文化に培われた剣道の基

本技能及び礼儀作法を正しく、安全かつ意欲的に指導する。

## ② 具体的な指導方法

### ア 剣道への興味関心を高める工夫

まず、生徒が剣道を嫌がる原因を調査した。その結果、臭い、痛い、難しいなどが理由に挙げられた。それらを少しでも軽減できるように剣道具の新調・管理、基本動作の反復練習による技術の習得、授業内容や目標の明確化、理解しやすい教師の指示などの工夫を行った。

また、授業時間を延長しないように時間配分に留意し、場の設定を工夫するなど、授業環境を整えることから始めた。

### イ 日本の文化、伝統としての剣道の歴史的背景や礼儀作法等の指導

平易な言葉で、日常的に使われている武道から派生した用語を理解させ、礼法などの意義や所作を丁寧に指導した。



【写真1 外部指導者の話を聞く生徒の様子】

### ウ 基本動作

剣道の基本となるフットワーク（足さばき）をダンス的なリズムにあわせ、現代風にアレンジしながら指導を試みた。

〔足さばき（すり足）…前後八挙動、左右八挙動、斜め八挙動、二人組での足さばき、面打ち三挙動、胴打ち三挙動、小手打ち三挙動、踏み込み〕



【写真2 左右八挙動の様子】



【写真3 二人組での八挙動練習の様子】

### エ 剣道具を着けないでの基本打ち

二人一組での面打ち練習では受け手と打ち手に分かれて、前後三挙動の足さばきで振りを大きく、ゆっくり脱力してのびのび打ち込むように指導した。



【写真4 面打ちの様子】

### オ 剣道具の着装練習

剣道具着装では、剣道具の仕組みを確認しながらゆっくりと丁寧に指導するように心掛けた。指導者は白の稽古着と袴を着用し、剣道具を着装する位置が分かるように配慮した。



【写真5 剣道具着装の様子】

友達間で教え合う場面もあり、意欲的に取り組む場面も多く、互いに着装の時



間や正確さを競うなど、競争心をもたせることが効果的であった。



【写真6 剣道具着装の様子】

カ 手ぬぐいの付け方の工夫

手ぬぐいで袋の作り方やかぶり方を実演した。一枚の手ぬぐいで簡単にかぶれる帽子ができることに感心しながら何度も挑戦した。



【写真7 手拭いで帽子を作る生徒の様子】

キ 面の着装

自分の後頭部に手を回し面紐が緩まないように締めさせることがなかなかできずに苦労したが、締め方を何度も繰り返し繰り返し練習することで紐の長さも調整できるまでになった。



【写真6 面着装の様子】

ク 二人一組での基本打突

〔面打ち〕

一足一刀の間合いからの面打ちを行った。二本交代で打ち込むが、留意点として、一本ずつ間合いを確認して、一步踏み込んでから打ち込むようにさせる。その際、力まずに正しく振らせることを意識させた。



【写真7 面打ちの様子】

〔胴打ち〕

右斜め前に一步踏み込みながら相手の右胴を打突させる。この時、手首が返るように気をつけさせる。逆胴を打たないように指導した。



【写真8 胴打ちの様子】

〔小手打ち〕

相手の右小手を軽く小さく打つようにする。



【写真9 小手打ちの様子】

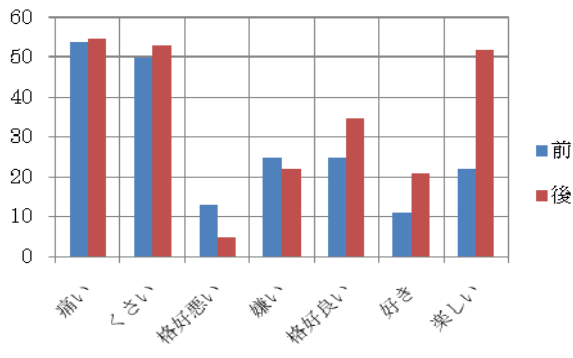
③ 成果・課題

ア 成果

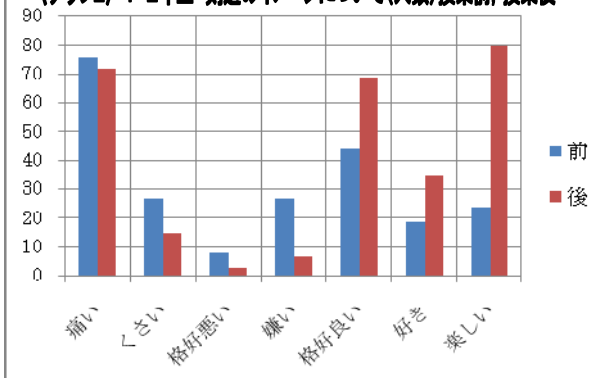
グラフ1・2はそれぞれ1年生，2年生の剣道の授業前，授業終了後にとった剣道のイメージについての実態調査の結果である。

1・2年生ともに「格好良い」や「好き」、「楽しい」といったプラスのイメージが授業前に比べて授業後の方が増加している。また，授業前にはマイナスのイメージである「格好が悪い」と答えた生徒が1年生，2年生それぞれ13名，8名であったが，授業後には5名，3名と減った。

〈グラフ1〉：1年生 剣道のイメージについて(人数)授業前，授業後

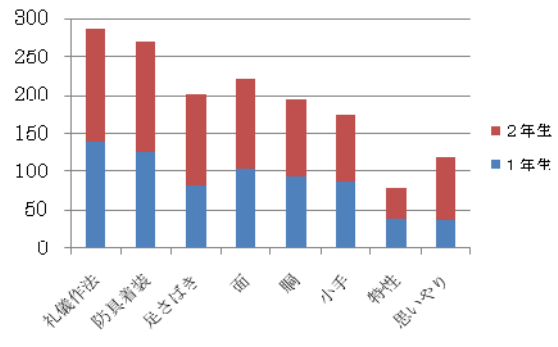


〈グラフ2〉：2年生 剣道のイメージについて(人数)授業前，授業後



さらに，グラフ3は，授業を終えて身に付いた成果について表したものである。1・2年生ともに礼儀作法が身に付いたと回答する生徒が8割以上に達しており，合計で285名であった。また，「足さばき」や「面打ち」などの技能面についても身に付いたという生徒が7割以上であった。今回の授業を通して，精神面・技能面ともに研究テーマのねらいを達成できた結果となった。

〈グラフ3〉：剣道の授業を終えて身についたこと(人数)



このような成果を上げることができたことは，外部指導者が指導に加わることで，より専門的なことを分かりやすく指導した結果と考える。

また，剣道の授業後，他の種目の授業においても礼儀や思いやりといったものが生かされることから，剣道がただ単に運動種目の一つということではなく，体力だけではなく，人間形成に大きな成果を上げる要素が多分に含まれていることを再確認することができた。

生徒の感想

- 最初は礼儀なんか面倒くさいと思っていました。でも，授業を受けて，礼儀や姿勢がすごく大切だということがわかりました。
- 私が授業で興味をもったものは「礼儀作法」と「面打ち」です。「左座右起」など普段でも使えるような作法もあって勉強になりました。
- 「残心」を教わってから生活面に活かすことがたくさんありました。二年生になっても外部指導者の先生の剣道の授業を受けたいです。

## イ 課題

### (ア) 【外部指導者との連携について】

1・2年生全体で行ったこの事業において、外部指導者との打ち合わせをする時間が不十分であった。外部指導者が週18時間も指導に参加するため、事前の打ち合わせをする時間や連絡調整をする時間あるいは授業の反省や評価をする時間の確保が難しかった。

### (イ) 【基本的な技術の指導時間について】

剣道を指導するにあたり、「剣道具の着装」や「竹刀の持ち方」など基本的な内容の指導に時間がかかることが多かった。

剣道は紐文化といわれるほど紐の結び方ができないと先に進まない。背面で結ぶことやきつく結ぶことが現代の子供たちには慣れていないため、できるまでに要する時間は大変なものであった。

また、重い剣道具を着装して不自由な動きの中で竹刀を操作することは初心者にとってはかなり大変であった。しかし、剣道の授業は打突される時、痛いわりには楽しかったという感想をもった生徒が半数以上に上った。

長期的な計画をたて、学年を追うごとに発展的な学習内容を工夫して、無理のない、あきのこない計画を立てることが生徒の意欲を向上させると考えられる。

### (ウ) 【授業の進め方について】

今年度は外部指導者が中心となって授業を進める場面が多かったが、次年度からは専門的で大事な場面には外部指導者にポイントを押さえて指導してもらおうが、できるだけ体育教員がT1となって授業を進めていかなければならないと考える。

### (エ) 【安全・安心の授業環境づくりについて】

竹刀は個人的に購入させて愛着をもたせ、さらには手入れの仕方を指導したりすることは安全面では欠かせない。毎時間始業前に点検する習慣を身に付けさせたい。

本校のような大規模校で多くの生徒が防

具を使用すると衛生面で課題が残る。また、破損も早くなるので安価な布の消臭剤を使用するなど工夫したい。